

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】H23（A-Ⅱ）H24（Ⅰ）H24（Ⅱ）【AIMS】H25／

京都大学

■プログラム名

「開かれた ASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成

—以下、ベトナム・ラオス・カンボジア・ミャンマーに特化した内容を主にご記載ください。—

■相手大学・機関（国名も記載ください）

ベトナム社会科学院（ベトナム）・ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）

■主な活動内容（概要）

平成 25 年 2 月 ベトナム社会科学院に院生 4 名派遣（専門）

平成 25 年 9 月 ベトナム国家大学ハノイ校（以下、ハノイ国家大学）に学部生 5 名派遣（異文化・語学研修、SEND）

平成 25 年 11 月 ハノイ国家大学に院生 1 名を派遣（専門）

平成 26 年 1 月 ハノイ国家大学に院生 1 名を派遣（共同指導）

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

おおまかに、大学院生の交流を中心とするベトナム社会科学院、学部生まで範囲が広がるハノイ国家大学という体制となる。本事業により、学部生まで受講可能なベトナム語授業・ベトナム語現地研修を新規に開始し、今後も継続実施の予定である。現地研修にあたっては、派遣前の語学講座・SEND 実施準備・健康安全教育を実施し、現地ではベトナム側教員の協力によるベトナム社会講義、ハノイ国家大学外国語大学東洋言語文化学部学生や英才高等学校の生徒を対象とした SEND にも取り組んだ。気候や食物の違いにすぐには適応できない参加者もいる中でよい成果をあげている。

受入にあたっては、ベトナム側の学生が、経済的な条件ゆえになかなか日本留学に踏み切れないことがかっており、奨学金制度の充実が望まれる。

成功事例

経済学研究科博士課程の院生 1 名が、ハノイ国家大学経済経営大学において 3 カ月間の共同指導を受けるかたわら、同大学からの委嘱を受けて、学部生を対象に、日本企業の経営の現状に関するゲスト講義を英語で実施した。

また、派遣学生による SEND 実施の結果、ハノイ国家大学で日本語を学ぶ学生の間で、京都大学に対する関心が高まり、26 年 4 月から学部学生 2 名（うち自費 1 名）が交換留学で来日するに至った。